

与論島初記録のムラサキオカガニ

藤田喜久

〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町1-4 沖縄県立芸術大学

Abstract

Gecarcoidea lalandii H. Milne Edwards, 1837 is reported for the first time from Yoron Island, Ryukyu Islands, Japan, on the basis of a single male specimen collected from the limestone coast of the island. In Kagoshima Prefecture, this species was previously known only from Amami-oshima Island, and the present report is therefore the second distribution record of *G. lalandii* in the prefecture.

はじめに

与論島の十脚目甲殻類相調査の過程で、オカガニ科の一種であるムラサキオカガニ *Gecarcoidea lalandii* H. Milne Edwards, 1837 が採集された。本種は、沖縄県では特に宮古・八重山諸島にて報告例の多い種であるが、鹿児島県下では奄美大島からの報告が1例知られるのみである（鈴木ほか, 2008; 藤田, 2009, 2017a; 鈴木, 2016）。与論島におけるムラサキオカガニの分布記録は今回が初めてとなるため、以下に報告する。

材料と方法

2023年6月16日に同島供利の海岸にて、夜間に石灰岩岩礁域を徘徊しているムラサキオカガニ1個体を徒手にて採集した。採集した個体は活かしたまま研究室に持ち帰り、冷凍後に写真撮影を行った後、70%エタノールにて保存した。また、デジタルノギスを用いて甲幅(CW)を計測した。本研究で得られた標本は、琉球大学博物館(風樹館, RUMF: Ryukyu University Museum, Fujukan)に収蔵されている。

結果と考察

Gecarcoidea lalandii H. Milne Edwards, 1837

ムラサキオカガニ

(図1)

調査標本 1雄 (RUMF-ZC-6123, 甲幅46.2 mm), 2023年6月16日, 与論島供利の海岸, 藤田喜久採集。

備考 今回得られた標本は、頭胸甲の額の幅(左右の眼の間)が狭いこと、頬部の毛が極めて少ないこと、生時の体色が濃紫色を呈すること、などの特徴が既知報告(藤田, 2009)に良く一致しており、容易にムラサキオカガニと同定することができた。

本種は、国内では奄美諸島の奄美大島、沖縄諸島の沖縄島と渡名喜島、宮古諸島の宮古島、来間島、フデ岩、多良間諸島の多良間島と水納島、八重山諸島の石垣島、鳩間島、西表島、与那国島から記録されている(鈴木ほか, 2008; 諸喜田, 2014; 藤田, 2017a; 前之園ほか, 2023)。鹿児島県下における本種の確認事例としては、奄美大島の飛沫転石帯環境から小型個体(甲幅11.6 mm)の報告が1例知られるのみである(鈴木ほか, 2008; 鈴木, 2016)。従って、本研究は標本を基にしたムラサキオカガニの与論島からの初記録報告であり、また、与論島は鹿児島県下における本種の2島目の分布地となる。

本種は現在、環境省レッドリストおよび沖縄レッドデータブックにて「準絶滅危惧(NT)」, 鹿児島県レッドデータブックにて「絶滅危惧I類」

Fujita, Y. 2023. New distributional record of *Gecarcoidea lalandii* H. Milne Edwards, 1837 (Decapoda: Brachyura: Gecarcinidae) from Yoron Island, Ryukyu Islands, Japan. *Nature of Kagoshima* 50: 21–22.

✉ YF: Okinawa Prefectural University of Arts, Syuri-Tounokura 1-4, Naha, Okinawa 903-8602, Japan (e-mail: e-mail: fujitayo@okigei.ac.jp).

Received: 18 June 2023; published online: 19 June 2023; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_050/050-005.pdf

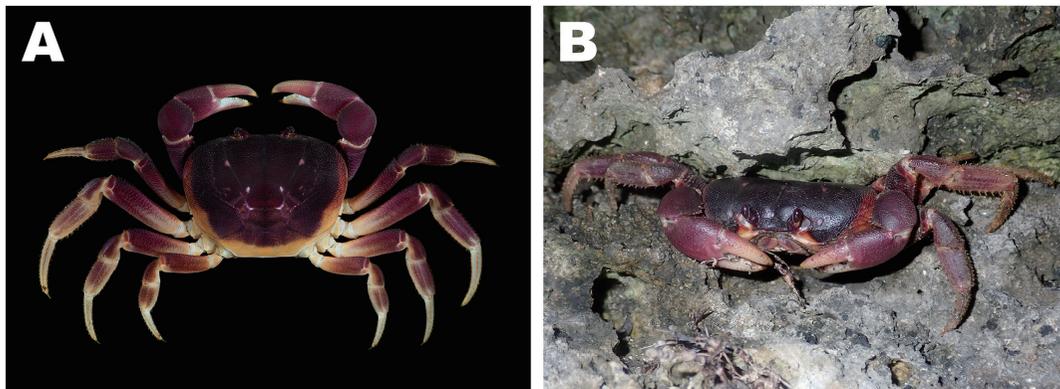


図1. 与論島から採集されたムラサキオカガニ *Gecarcoidea lalandii* H. Milne Edwards, 1837 (RUMF-ZC-6123:雄, 甲幅46.2 mm)。A, 全体背面; B, 生態写真, 供利の石灰岩岩礁海岸。
 Fig. 1. *Gecarcoidea lalandii* H. Milne Edwards, 1837 collected from Yoron Island, Ryukyu Islands, southwestern Japan (RUMF-ZC-6123: male, CW 46.2 mm). A, entire animal, dorsal view; B, *in situ* photograph, limestone rocky shore at Tomori coast.

と評価されている希少種である(藤田, 2017b; 鈴木, 2016; 環境省, 2020)。本研究にて本種を採集した供利海岸は、与論港が隣接するにも関わらず海岸環境(石灰岩岩礁, 砂浜, 後背地の海岸林など)が比較的良好な状態に保たれており、また、本種と同所的にヤシガニ *Birgus latro* (Linnaeus, 1767) やヘリトリオカガニ *Tuerkayana rotundum* (Quoy & Gaimard, 1824) などの希少種の生息も確認されている(藤田, 2022; 藤田, 未発表データ)。今後も開発等の人為的影響を最小限に抑えることができるよう、地域を主体とした積極的な環境保全対策が求められる。

謝辞

本研究の野外調査を実施するにあたり、与論郷土研究会会長の麓才良氏にご協力いただいた。また、本研究の実施には、独立行政法人日本学術振興会の令和2年度科学研究費助成事業(基盤研究B:課題番号20H03313:研究代表藤田喜久)による支援を受けた。以上の関係者および関係機関に感謝する。

引用文献

- 藤田喜久, 2009. 宮古島のオカガニ類. 宮古島市総合博物館紀要, 13: 53-70.
- 藤田喜久, 2017a. 先島諸島における希少オカガニ類4種の分布記録. *Fauna Ryukyuna*, 36: 19-26.
- 藤田喜久, 2017b. ムラサキオカガニ. P. 336. 沖縄県文化環境部自然保護課(編), 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編)ーレッドデータおきなわー. 沖縄県文化環境部自然保護課, 那覇市.
- 藤田喜久, 2022. 与論島初記録のヘリトリオカガニ. *Nature of Kagoshima*, 49: 49-51.
- 環境省, 2020. 【その他無脊椎動物】環境省レッドリスト. <https://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf> (2023年6月17日閲覧)
- 前之園 唯史・村上勇樹・高橋洋生, 2023. 渡名喜島初記録のムラサキオカガニ(オカガニ科)およびハマペンケイガニ(ペンケイガニ科). *Fauna Ryukyuna*, 66: 43-45.
- 鈴木廣志, 2016. ムラサキオカガニ. P. 341. 鹿児島県環境林務部自然保護課(編), 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編 ー鹿児島県レッドデータブック2016ー. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 鹿児島市.
- 鈴木廣志・藤田喜久・組坂遵治・永江万作・松岡卓司, 2008. 希少カニ類3種の奄美大島における初記録. *CANCER*, 17: 5-7.
- 諸喜田 茂充, 2014. ムラサキオカガニ. P. 65. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編), レッドデータブック2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物7その他無脊椎動物(クモ形類・甲殻類等). ぎょうせい, 東京.